

関城中学校 学校だより 06号

〈学校教育目標〉

き せき
輝 関

自ら学び 心豊かで たくましい生徒の育成

発行 筑西市立関城中学校

発行日 令和6年1月29日(月)

HP <http://www.chikusei.ed.jp/sekichu>

TEL 37-6055 FAX 37-8187

よりよい社会のために

校長 石川 義信

今、日本では、(相対的)貧困化が進むなど社会課題が多く、閉塞感が強まっています。一方、世界を見渡すと、ロシアのウクライナへの軍事侵攻やイスラエル・ガザ戦など、各地で争いごとが起きています。世界は混迷しています。よりよい社会にするためには、どうしたらよいのでしょうか。

作家の佐藤優氏は、NHKのインタビュー(※)の中で、日本社会は過去「30年経って、貧しくなっている。」と言っています。そして、それを乗り越えていくためには、「人間と人間の間を、信頼関係を強化していく」ということを、大きな理屈を立てていくということよりも、自分の手の触れる範囲でどうやって、やっていけるのか。」がポイントであると語っています。以下、佐藤氏の言葉です。

「自分が恵まれた環境にあると思った人に関しては、それは自分の力じゃないんだから、それは社会に返さないといけない。また自分がちょっと大変な状況だということだったら、遠慮なく助けてくれと言っていいと思うんです。」
「そういうことが率直に言えると、環境の良いところにある人というのは、それは自分の力じゃないから社会に還元しないといけない。厳しいところにいる人は頑張りすぎない、助けてくれと。そういうふうに言うと、助けてくれる人必ず出てくる。こういうふうには私は思っているんですよ。」
「そのためには、視聴者のみなさんの中で、自分の周囲で出来る可能性があったら、無理をしてはいけないんだけど、ちょっとだけ勇気を持って少しやってみると。結局この集積じゃないかなと僕は思っているんですね。」と語っています。

少し異なる文脈の中になりますが、「人間には優勝欲、要するにマウントしてくという欲望がある。人は、こういうような形での競争に入っていって、人と人がばらばらになって、自分の方が相手より偉いんだと、勝っているんだと、こういうふうになってしまうことがあると。」言った人がいるとも語っています。

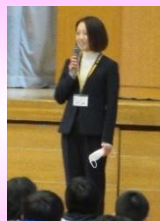
偉い・偉くない、勝っている・劣っているではなく、助けられたり、助けたりできることが上手く連鎖すれば、課題を乗り越えてよい社会になっていくのだと思います。本校では「共生・協働・寛容」をキーワードに、よりよい学校を目指しています。そして、それは、よりよい社会をつくるための基礎を培っていくことだと思っています。

※ NHK クローズアップ現代 取材ノート「佐藤優 ロングインタビュー スクープの舞台裏混迷する世界・新時代への思い」(2024年1月23日)から、私なりに読み取ったことを書かせていただいております。他者をよく理解することの大切さも述べておられます。

新 相談員 着任～心の相談

「心の相談室」に、前任の〇〇 相談員に代わって、〇〇 〇〇 相談員が着任しました。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



令和6年がスタートしました

1月9日(火)に3学期がスタートしました。寒さ厳しい朝でしたが、全校生徒・職員が体育館に一堂に会し始業式を行いました。各学年の代表生徒が、3学期の抱負を力強く発表してくれました。



避難訓練と防災教室

1月9日(火)に、避難訓練を実施しました。市役所消防防災課の職員を講師として、防災教室も開催しました。元日に能登半島地震が起きたこともあり、たいへん真剣に臨んでいました。



R6年度生徒会本部役員選挙

国民の政治不信や若者の政治離れ等が課題であるとされ、学校には、主権者教育の充実も求められています。そのような中、12月15日に、令和6年度生徒会本部役員選挙を実施しました。投票前の立会演説会では、立候補者、応援者とも、全員が原稿やメモを見ることなく、聴者に語りかけるように主張を訴えていました。聴者も、私語など一切なく、真剣に聞いていました。投票も、選挙管理委員の誘導で、市選挙管理委員会よりお借りした記載台や投票箱を使用し、整然と行うことができました。当選した生徒には、来年度も、生徒会活動を盛り上げてくれることを期待しています。残念ながら当選がかなわなかった生徒も、各専門委員会や実行委員会で活躍して欲しいと思います。さらに、全生徒に、近い将来、18歳で手にする参政権(選挙権)を生かして行ってほしいと願っています。

